



徳之島には梅雨明けとともに夏がやってきました！日差しは焼け焦げそうな暑さですが、木陰に入ると涼しい風が吹いてきます。そんな夏の徳之島では現在、外来種が大問題になっています。誰でも名前を知っているアメリカザリガニと、東南アジア原産でこの5月に徳之島で初確認されたシロアゴガエル。それぞれ、数ある外来種の中でも、特に生態系に多大な影響を及ぼす「侵略的外来種ワースト100」として選ばれています。今回の会報誌では、これらの外来種の危険性と、虹の会の奮闘の様子をお届けしたいと思います。

アメリカザリガニ シロアゴガエル

特定外来生物



特徴
くちいびるが白い

鳴き声
「グェッ」と短く鳴く

たまご (卵塊)



シロアゴガエルは、東南アジア原産のカエル。60年代に貨物に紛れて沖縄本島に侵入し、その後離島地域にも伝播。二〇一三年には与論島で生息が確認され、今年5月15日、徳之島でも初確認されました。

基本的に樹上性で、木の上で生活しますが、繁殖期は地上にも下りています。環境への適応力が非常に高く、自然林にも市街地にも生息することができます。カエルの仲間の中でも乾燥に強いいため、小さな水たまりやため池などでも繁殖が可能。また繁殖力が非常に強いことから、**生きたままでは許可なく運搬することは禁止**されています。

シロアゴガエルの繁殖期は4月〜10月ごろ。メスは泡のかたまりのような卵を産みますが、ひとかたまりの泡(泡巣)の中に、二〇〇〜四〇〇の卵が入っています。しかも、**半年という非常に長い繁殖期の間に、一匹のメスが何度も産卵を繰り返す**とされています。それに対して、同じく樹上性で、似た生息環境を好む在来種・アマミアオガエルの産卵は1年に一度。このまま何もしなければ、シロアゴガエルは**在来のカエルの何倍もの速さで繁殖・増殖し、その住処を奪って絶滅**させてしまう可能性があるのです。

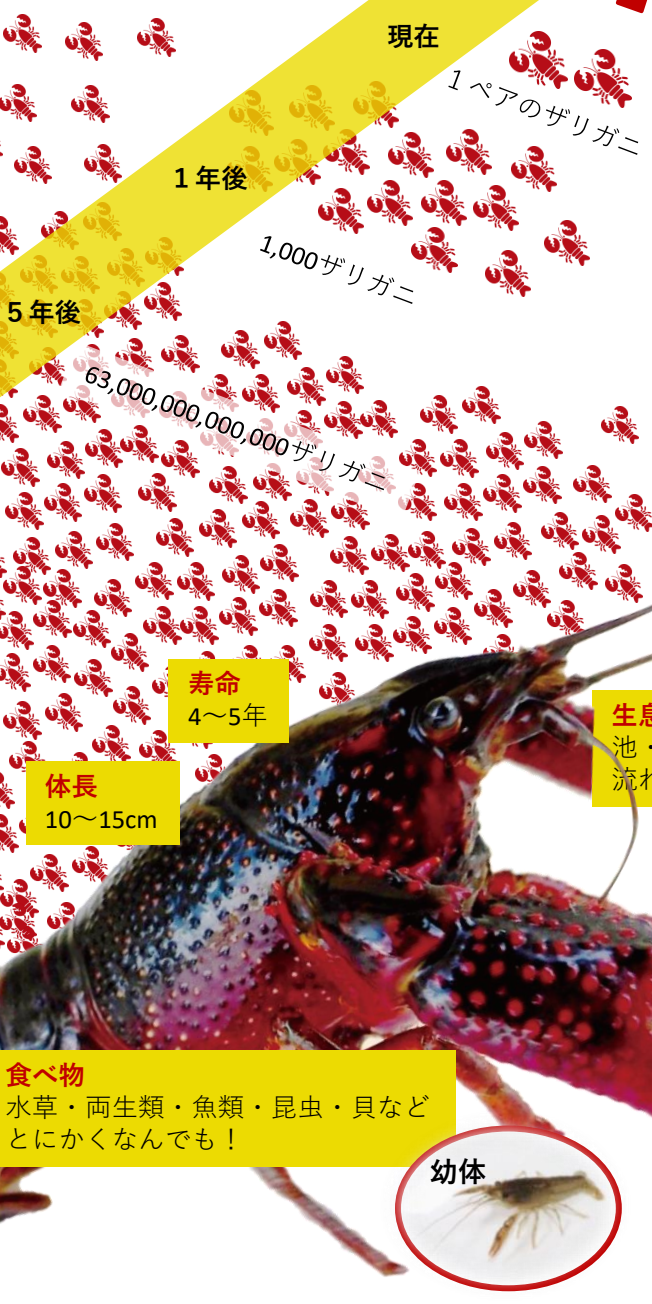
徳之島では、徳之島町徳和瀬集落で初確認ののち、井之川から伊仙町目手久までの33地点で確認されました。虹の会では初確認の翌日から駆除作業を開始し、**約2か月余りで既に成体の駆除数は一〇〇〇匹、卵塊の駆除数は一七〇〇個を超えています**。侵入の確認後、唯一根絶に成功した西表島では、初確認の二〇一五年から根絶宣言までの4年間で、成体を61体、卵塊を約35個駆除したといえますから、**徳之島の状況がいかに深刻**かがわかります。これだけ駆除しても、まだまだ作業は続いています。

昼はザリガニとカエルの卵、夜は成体のカエルをターゲットに、虹の会では昼夜を問わずパトロールおよび駆除作業を実施しています。いくら駆除しても終わりの見えない作業は簡単ではありませんが、誰かがやらなくては徳之島の生態系が大きく崩れ、取り返しのつかないことになってしまいます。根気よく作業を継続していくことが何より大切ですが、そのためには地域の住民のみなさんとの連携がとても重要になってきます。

アメリカザリガニは、アメリカ大陸原産の甲殻類。日本には戦後に持ち込まれ、野生化した個体が日本全国に拡がり増え続けています。徳之島では、5年ほど前、三京集落内の側溝で初めて確認されました。

ザリガニは一回の産卵で二〇〇〜千個の卵を産みます。つまり、単純計算でいくと、**一对のザリガニが、次の年には千匹、5年後には最大で約六十三兆匹に増える**ことになります。

なんでも食べるザリガニは、**もともとそこに暮らしていた生き物たちを絶滅**させてしまう**危険性**があります。生命力も非常に強く、汚い水の中でも生きることができ、水が干上がった後も中に穴を掘って生き延びることができるとのことです。この6月から**飼育しているザリガニを野外に放したり、逃がしたりすること**に**罰金・罰則が課せられる**ようになります。外来の動植物は、ぜひ丁寧に放さない・逃がさないように、くれぐれも気を付けてください！



もちろん、駆除が必要な徳之島の外来種はこの二種類だけではありません。ここ数年環境省から請け負って実施しているノネコ対策事業や、外来植物の駆除作業なども、例年通り実施が必要です。

そのほかにも、島内の学校の前授業や、昆虫乱獲防止のパトロール、希少種調査など、業務は山積みです。会員のみなさまには、引き続きサポートと応援をお願いしたいと思えます。一緒に作業してくれる方も募集しています！

活動報告 (2023.2~2023.7)

- 2月7日 徳高生と哇海岸清掃会
 - 2月8日 西部ダム草刈り作業
 - 2月19日 環境省主催カムイヤキの森ツアー
 - 2月21日 徳高出前授業
 - 2月22日 田中先生のガイド研修
「世界自然遺産・徳之島にふさわしいエコツアーリズム」
 - 2月23日 伊仙中学習発表会
 - 2月26日 金見海岸清掃会2023
 - 2月28日 自然遺産1周年シンポジウム
 - 3月9日 環境省植物調査
 - 3月12日 世界自然遺産展 講演会@沖縄県立博物館
 - 3月13日 山田先生とクロウサギ座談会@母間
 - 3月14日 クロウサギ紙芝居@伊仙幼稚園
 - 3月16日 鹿児島県環境アドバイザー会議に参加
 - 3月22日 奄美群島認定エコツアーガイド 認証式
 - 4月9日 フレッシュマートとくやま春の遠足
 - 4月16日 伊仙町町制施行60周年記念式典 出席
 - 4月24日 理事会・社員総会
 - 5月2日 山中学校出前授業
 - 5月15日 シロアゴガエル島内初確認！
駆除作業スタート
上級救命講習
面縄小出前授業
 - 5月21日 おためし島料理体験
 - 6月6日 夜間生き物調査 (県ハブ事業)
 - 6月8日 夜間生き物調査 (県ハブ事業)
 - 6月12日 ラジオ生出演
 - 6月14日 昆虫密猟防止パトロール スタート
 - 7月 面縄小出前授業 (座学)
 - 7月4日 面縄小出前授業 (ウミガメ観察)
- そのほか 実施中の事業
環境省・林野庁 希少野生生物保護に関わる業務
(株)ベルトラ 徳之島エコツアー
鹿児島県ハブとの共生に関わる事業
アロ・ナツ自然環境保全活動リーダー人材育成事業
伊仙町学校自然体験事業
インドネシア・徳之島環境学習交流事業

→2月26日、毎年恒例の金見海岸清掃会。総勢二〇〇名以上の参加者が集まり、2トンドンプ9台、1.5トンドンプ3台、軽トラック3台分の漂流ゴミを回収しました！

→3月14日、ウサギ博士の山田先生を隊長に「クロウサギを守り隊」を結成。伊仙小・犬田布小・伊仙幼稚園で紙芝居の出前授業を実施しました。

→4月9日、母間のフレッシュマートとくやまのみなさんと春の遠足エコツアー。ここ数年コロナの影響で休止していたため、自然遺産に登録されてからは初めての遠足でした！

→4月16日、今年で町制60周年を迎える伊仙町の記念式典。虹の会のこれまでの活動を評価していただき、町から表彰をいただきました！



←5月15日、シロアゴガエル島内初確認。この日から大騒ぎ・大忙しの日々が始まりました。詳しくは裏面をご熟読ください！

←6月8日、虹の会事務所のおとなりで島料理体験ができるようになり、おためし体験会が行われました！メニューは「卵おにぎり」と「ナベラ(ヘチマ)のみそ炒め」。

←夏に突入し、昨年大問題になった昆虫トラップによるクワガタの乱獲が、今年も発生中。写真はストッキングにバナナを入れたトラップ。島内で見つけた方はお知らせください！

←7月8日、面縄小のみなさんとウミガメ上陸の痕跡確認。今年には伊仙町の事業で、町内3つの小中学校と自然体験活動を実施しています。



ウミガメシーズン到来！

初夏から夏にかけて、島のあちこちの砂浜へ大きなお母さんガメが産卵にやってきます。ここ数年は上陸数が減少傾向にありましたが、今年は久しぶりに少し上向き！夏休みに入ったら、今度は子ガメの孵化・脱出の時期。今年もたくさんのウミガメが無事に海を渡っていけますように！

ウミガメ観察を行う際は、ウミガメにも、周辺のおうちにも迷惑をかけないように、マナーを守りましょう！

できるだけエコツアーガイドと一緒に観察を行ってください！

◎**観察には赤いライトを使おう**
産卵も孵化も、暗い時間に見られることが多いため、懐中電灯が必須。赤い色のライトは、ウミガメへの影響が少ないとされています。

◎**小さな声でお話しましょう**
産卵上陸したお母さんガメは、海岸が騒がしいと、産卵をやめて海に戻ってしまうことも！夜の遅い時間の場合には、周辺地域にも配慮して、小さな声でお話しましょう。

◎**産卵場所はそっと見守ってください**
この時期、砂浜に右の写真のような棒が立てられていたり、テープで囲われた場所があったりします。これは「この下に卵があります」の目印。棒を抜いてしまったり、囲いの中に入らないようにしましょう。



賛助会員 募集中！

虹の会賛助会員
年会費：5,000円/世帯

当会の活動にご理解ご賛同いただける方のご入会、ご寄付、ご紹介をお願いいたします。

2023年7月現在、会員数130名

詳しくは公式サイトをご覧ください

NPO法人 徳之島虹の会

TEL/FAX 0997-86-3575
MAIL shimaniji@gmail.com
公式サイトが
リニューアルしました！
<https://shimaniji.com>



虹のつばき

7月20日、この原稿を依頼された。いつも事務所で言いたいことを言っている私としては断れず、久々にパソコンの前に座った。

虹の会は現在多忙をきわめている。昨年末から始まったアメリカザリガニの駆除作業に奔走していた最中の5月16日、パトロール中の虹の会会員から連絡が入った。「このカエル何ですか？」時刻は午前0時10分。翌朝専門家に確認したところ、特定外来生物のシロアゴガエルであることが発覚。環境省も大慌てである。それから、環境省・行政・虹の会で駆除作業と分布調査作業を開始した。毎日の当番表を作り、たくさんの方々の協力のもと昼夜を問わず駆除作業の真っ最

中である。

世界自然遺産とは、「人類共通のかけがえのない財産として、将来の世代に引き継いでいくべき」自然のこと。そうでなくても、徳之島虹の会は、これまでずっと徳之島の自然を守り、未来につなげる活動を行ってきた。いま私たちが何をすべきか、何ができるのか。島の宝を守り、未来の子どもたちに豊かな自然を残すことができるのか。年金生活者として今何ができるのか、何をすべきか。これからも粉骨砕身頑張りたい。

By くまじいじ